

Do-Re

北海道立図書館レファレンス通信

No.45(通巻 49 号)

平成 24 年 3 月 31 日発行

【目 次】

- こんなのきました ー利用サービス課によせられたレファレンスー 【45】 …………… 1
困った時の検索エンジン
- こんなのあります ーいちおしレファレンス・ブッケー 【35】 …………… 2
医療関係者向け資料から
- 市町村のみなさんからの発信 【33】 …………… 3
「貧乏だけど豊かな(?) 長沼町図書館」 長沼町図書館 池内泰子さん
- 北海道立図書館所蔵雑誌創刊号目録 1911-1969』を発行しました…………… 4
- Librarian's Box(しよぼこ) 【30】 …………… 5
公立図書館への歴史的音源の配信試行
- 課員のつぶやき ー日々の業務からの短信ー 【32】 …………… 6
複写の対応で困ったときに…
- レファレンス・サービスに関する雑誌記事紹介 (2011 年 12 月~2012 年 3 月分) 7
- News …………… 8
 - 1 書庫ツアー開催 (2/2)
 - 2 第 8 回レファレンス協同データベース事業フォーラム開催 (2/27)
 - 3 市町村図書館職員レファレンス体験研修の実施 (2/28)
 - 4 北見地区公共図書館(北見ブロック)研修会へ講師派遣 (3/15)
 - 5 日本薬学図書館協議会シンポジウム開催 (3/28)
 - 6 光交付金でレファレンスツールが充実
 - 7 筑波大学公開講座「これからの公共図書館政策」受講者募集中
- 編集後記 …………… 9



北海道立図書館

HOKKAIDO PREFECTURAL LIBRARY

こんなのきました —利用サービス課によせられたレファレンス— 【45】

困った時の検索エンジン

1 米国で2010年11月、上院510法案「食品安全近代化法」が可決された。内容を知りたい。

既に国立国会図書館の雑誌記事索引で「食品安全近代化法」をキーワードに検索し、ヒットした『現代農業』2011年9月号の記事は確認済みとのことでした。

当館の関連の蔵書や、雑誌・新聞記事検索で調査しましたがいまひとつ。未所蔵資料も含めた各種データベースでも様々検索しましたが、芳しくありません。そこで、Googleの検索オプションでドメイン等を指定し、信頼できる公的機関を中心に検索してみました。

キーワード：食品安全近代化法 ※完全一致

言語：日本語

ドメイン：.go.jp ※または「.ac.jp」「.or.jp」等を指定

日付：1年以内

その結果「食品安全強化法」という同意語を発見。再検索し次のサイト等を紹介しました。

● 米国食品安全強化法の概要及び分析（2011年10月）

http://www.jetro.go.jp/world/n_america/reports/07000726

→日本貿易振興協会の調査レポートで、要旨とPDFファイル（全文50p）あり。

このPDFの巻末リストから、アメリカ政府機関の次のサイトも紹介。

● 連邦食品医薬品局（FDA） <http://www.fda.gov/>

- ・ 食品安全強化法ウェブサイト

<http://www.fda.gov/Food/FoodSafety/FSMA/default.htm>

- ・ 日本語ウェブサイト

<http://www.fda.gov/Food/FoodSafety/FSMA/ucm242834.htm>

※「日本」を選択。さすがアメリカ、多言語対応です。

2 掛け軸に書かれている詩の内容を知りたい。

「古寺竹深禅楊静靑窓花落硯池香」と書かれているようで、愛新覚羅の詩と聞いているか曖昧とのこと。また、よく書道の題材にされるようだと。

何か手掛かりをとGoogleで「古寺竹深」で検索したところ、日本語のサイトは少なく、作品の説明にも出典不明とあり参考になりません。中国語のサイトは多々ヒットしましたが、よく見ると「禅楊静靑窓」などは、同じ漢字でも形が少々異なっています。そこで、形が同じだった「古寺竹深 花落」で再検索。中国語のほかハングルのサイトもヒットしました。私は中国語やハングルの知識がないため、漢字表記から推測するのみです。日頃、インターネットを活用する際は信憑性が大事とお話していますが、今回ばかりは正確な見極めはできません。ウェブページの翻訳も試みましたが、直訳の変な日本語になるばかり。仕方なくキャッシュを頼りに丹念に見ていくと、中国の元の時代の顧瑛という詩人の作品らしいことがわかりました。

それを手掛かりに、漢詩、元詩、書道、墨場、名句名言等、関連蔵書にあたりました。そもそも元詩の日本語文献の出版自体、そう多くありません。リサーチ・ナビ調べ案内「漢詩の口語訳、書き下し文」(http://rnavi.ndl.go.jp/research_guide/entry/theme-asia-15.php) ほかも参照しましたが、当館では判明しなかったため国会図書館へ照会しました。

回答結果は、『元詩選 第2巻』（上海古籍出版社 1998）に元の顧瑛の詩「戲答陸静遠」が収録され、その中に該当の語句が含まれている。日本語による解説資料等は発見できなかったとのことでした。

比較的新しい情報や日本語での出版があまりない場合は、インターネット情報源、特に本国のサイトが役に立つと思った事例2題でした。

医療関係者向け資料から

『今日の治療指針 私はこう治療している 2010』

(医学書院 57,1903p 27cm 2010.1 ¥19,000 (本体) 請求記号: 492/KO/H22

病院の診察室で、先生の机の上にこの本が置いてあるのをよく見かけます。いわば先生の虎の巻?のようなものなのではないでしょうか。医師、看護師、薬剤師など医療関係者向けですが、患者が見ても有効な参考図書です。書籍の紹介文には「日常臨床で遭遇する疾患を網羅し、その治療方針を解説」とあり、冬の時期なら「インフルエンザ」「かぜ症候群」、これからの夏の時期でしたら「熱中症」「食中毒」等、日常受診する多くの病気が収録されています。1098疾患項目についてそれぞれ、病態と診断、治療方針、処方例等が1ページ前後でコンパクトにまとめられています。また、付録「診療ガイドライン」では、28の診療ガイドラインについて専門家がその特徴を解説。それ以外についても「診療ガイドライン一覧」で、発表年度、作成者、掲載雑誌・書籍・URLを知ることができます。医療関係者用ですので専門用語が使われており、コンパクトにまとめられているのであまり詳細な記載ではありませんが、受診前や受診後に、患者向に書かれた他の資料と合わせて読むと参考になります。「事項索引(和文)」があるので、医療従事者でなくても容易に探すことができます。デスク判(B5判)とポケット判(B6判)が各判毎年刊行されています。2012年版も購入予定です。

『健診・人間ドックフォローアップハンドブック』

(中外医学社 6,224p 21cm 2011.2 ¥3,800 (本体) 請求記号: 492.1/KE

健康診断・人間ドックのフォローアップ(事後指導)に関してまとめたハンドブックです。実際的な内容で、事後指導に関する知識を網羅しています。健康診断・人間ドックで異常所見があった場合、精密検査が必要になった場合に、先生から患者への説明の参考にするための資料ですが、患者自身が読んでも役立ちます。索引があります。

『介護の現場で役立つお薬&医療知識ハンドブック 介護職従事者必携!』

(ユーキャン学び出版 247p 18cm 2011.12 ¥1,480 (本体) 請求記号: 493.185/KA

介護職従事者向けに介護の現場に必要な情報をコンパクトにまとめたハンドブック。疾病別・薬効分類別に525種の薬の情報を掲載し、高齢者に多くみられる症状とその介助に関する情報、緊急時の対応等を収録しています。自宅で介護を受けている患者やその家族にも便利な資料です。薬剤名の索引、主な用語の索引があります。



市町村のみなさんからの発信 【33】

「貧乏だけど豊かな(?) 長沼町図書館」

長沼町図書館 池内 泰子 さん

いつも相互貸借やレファレンスでお世話になり、ありがとうございます。長沼町はみどり豊かな田園風景をウリにグリーンツーリズムで高校生受入や、新鮮な野菜があり、はたまた芸術家が数多く住んで、田舎の町です。当町オープン当時は図書費の予算があったのですが、徐々に経費削減を受け、今では・・・。(悲しい)。でも、貧乏図書館でも、北海道立図書館や北海道内図書館との相互貸借で、利用者の方にはなんとか図書提供をスムーズに行っています。

さて、長沼町の参考調査事例(未解決含む)を三点紹介します。

①長沼町に東庭園という、町が寄贈を受けた庭園があるのですが、昭和42年頃農林省の「屋敷林コンクール」に入選したとのこと。この「屋敷林コンクール」のことを詳しく知りたいと役場職員からの調査物、難航しました。道立図書館、国会図書館まで行きましたが、結局不明です。どなたか、もし心当たりのある方、ご一報を。

②オーストラリアの1990年代の財政破綻時に民間の21の団体が関与していると聞いたがこの21の団体を詳しく知りたいと町民からの調査、これはじっくり中身を見ないとわからない故現在調査中。(結構前から・・・)

③明治45年頃長沼にいた〇〇さん(実名)たぶん曾祖父か?関係を知りたいと広島県内の方からの電話。これは、町史や区史や役場町民係を駆使し町内の親戚の方に行き着き、一件落着。

以上、簡単に紹介しました。わかりきっていることですが、小さな町の図書館は日々、利用者との会話が本当に大事なな~と思います。カウンター等で「お久しぶりです、お元気でしたか?」や「こんな本入りました」などと話していくうちに、「いや~こんな事探してるんだわ」や「この人のこんな本あるかい」とか、はたまた、お店屋さんで偶然会った人からも事項調査依頼があつたりします。町に溶け込むって大事ですね。そんな訳でただおしゃべりしているわけではありません、町長にいちいちチクらないように(怒)

今、図書館で展示している「泣く泣く閉架にしまった本」がなかなか好評で図書室時代からの図書や道立さんにない図書などギャラリーに展示しています。なかなか利用者は閉架の存在を知らず、古~い本ばかりの展示ですが「これ昔読んでたよ」や「こんな本もあるんだね」とか反応が良いのでお勧めします。それから、『夜明けの図書館』(埜納夕才著 双葉社 2011 (コミック))を何十年も前のことを思い出しながら読んでます。いつも、初めて来館する人の気持ちとなり、カウンターや書架をウロウロしておりますので、ぜひ温泉や馬追自然の森や、野菜レストラン、パークゴルフのついでに図書館へお越しください。お待ちしております。今後ともお世話かけますのでよろしくお願いたします。以上、とりとめのない話ですみません。

『北海道立図書館所蔵雑誌創刊号目録 1911-1969』を 発行しました

3月末に、当館ホームページ上の「文献目録」のページに、『北海道立図書館所蔵雑誌創刊号目録 1911-1969』を掲載しました。これは、当館が所蔵している雑誌（北方資料室所蔵の雑誌を除く）の創刊号のうち、1969（昭和44）年までに刊行されたものの目録で、1,088 タイトル収録されています。

当館では、現在 28,706 タイトルの雑誌を所蔵しています。この中には、現在購入している雑誌のほか、江別市に移転する前から所蔵している雑誌、寄贈していただいた雑誌なども含まれます。特に、昭和50年に東京の栗田出版販売株式会社から寄贈いただいた昭和24年から49年に掛けて発行された1,600タイトル、30万冊の雑誌、昭和62年に中鉢文夫氏より寄贈いただいた昭和32年から60年に掛けて発行された雑誌の創刊号987タイトルは、当館の所蔵している雑誌の中でも貴重な資料となっています。昭和20年代後半から昭和40年代は数多くの雑誌が創刊・復刊をしており、その当時の文化を知るのにも重要な役割を持っています。

今まで、創刊号の目録は大量寄贈を受けた際に作成した目録や展示会の際に作成した目録等、複数の目録に分かれていました。市町村への展示貸出でも人気のある分野でもあり、より利用しやすくするために、目録の一元化をする必要性がありました。

今回の目録の作成にあたっては、雑誌の創刊・復刊が多かった昭和40年代前半までを対象とし、今まで出された目録を統合しつつ、現物と照らし合わせながら作成を進めていきました。当館の所蔵している雑誌は必ずしも継続して所蔵しているわけではなく、創刊号の1冊のみ所蔵している資料も多くあります。薄くて小さい雑誌などは、大きい雑誌に挟まれて見つけにくかったなどの苦勞もありました。

今回作成をする中、数多くの創刊号に触れることができました。北海道内・外から複写依頼が多く



週刊女性自身・週刊ポスト・週刊新潮の創刊号



ある『おもしろブック』『少女ブック』といった昭和20年代に刊行された子ども向け雑誌や『週刊新潮』『週刊ポスト』『週刊女性自身』『週刊少年マガジン』など現在も続いている週刊誌など、実際に読んだり、耳にした雑誌が多くありました。

また、雑誌は表紙が華やかで、当時話題になったものや人物などが多く掲載されています。この目録をご覧ください、皆さまの図書館、図書室で展示を開かれるのはいかがでしょうか。

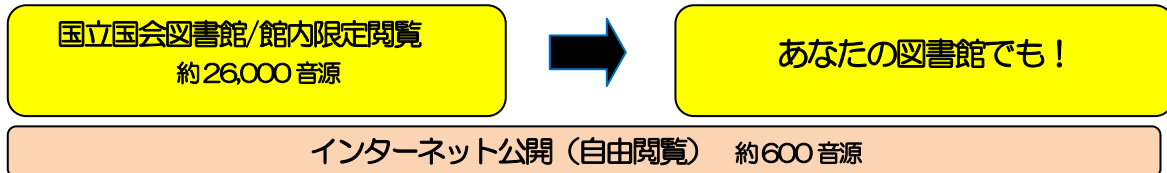
Librarian's Box (ししょぼこ) 【30】

公立図書館への歴史的音源の配信試行

当館では今年1月24日から、国立国会図書館が提供する「公立図書館への歴史的音源の配信試行」に参加し、利用者への提供をおこなっています。

歴史的音源とは、1900年初頭～1950年頃に国内で製造されたSP盤及び金属原盤等に収録された音楽・演説等、約5万の音源のことです。国立国会図書館では、現在までに約26,000の音源がデジタル化され、それらの音源を館内限定で提供するとともに、著作権・著作隣接権保護期間を満了したもの約600音源についてインターネットへ公開しています。

今回、国立国会図書館の館内限定で提供されていた音源が、当館内でも聞くことができるようになったのです。



内容としては“音源”と言うだけあって、歌ばかりではありません。落語、長唄、楽曲（ギター、琴、尺八等）、歌劇、浄瑠璃（義太夫節、清元節、常磐津節）、浪花節、歌謡曲、講演、ジャズ等、様々なものが含まれています。

提供元レーベルは、日本放送協会（NHK）、ビクターエンタテインメント、EMIミュージック・ジャパン、日本コロムビア、キングレコード、テイチクエンタテインメント（順不同）の6レーベルです。

例）菊田一夫「鐘の鳴る丘」（放送劇）1948/桂春團治「いかげや」（落語）/京山小圓「大岡政談」（浪花節）/「札幌シャンソン」（シャンソン）1949/「山本元帥国葬模様」（日本放送協会録音）1943/「タロー・ジローのカラフト犬」（こどものうた）1958など。

視聴してみると興味深いものが多く、その時代を彷彿とさせられます。

試行の参加対象は、公立図書館で、国立国会図書館のHP上からダウンロードできる参加規程に同意の上、申請書を送ると、無料で配信が受けられます。（配信は視聴のみで、ダウンロードや複製はできません。）

第一次の参加館募集は終了してしまいましたが、国立国会図書館では配信先を増やす方針ですので、メルマガやHP等の情報をチェックしていると良いでしょう。（歴史的音源の配信試行提供のページ <http://dl.ndl.go.jp/ja/rekion4Lib.html>）

当館では、試行開始から二ヶ月が過ぎましたが、まだまだPR不足を感じています。これからは、いろいろな事業に合わせて広報していきたいと思っています。



【歴史的音源の配信試行】

課員のつぶやき 一日々の業務からの短信—【32】

複写の対応で困ったときに…

カウンターでの複写の対応が難しいものとして、地図と楽譜があげられます。

著作権があるため地図や楽譜は1枚・1曲の半分までしか複写できない、ということとはなかなか利用者に理解されにくいのではないのでしょうか。また、住宅地図など自館で所蔵していない地域のものを探している方だからでしょうか、「明後日、現地に行くので出発までにコピーが欲しい。」というような急ぎのことが多い気がします。

そのような今日・明日中にどうにか住宅地図のコピーを入手したいという場合は「ゼンリン住宅地図プリントサービス」(<http://www.zenrin.co.jp/j-print/service.html>) というセブンイレブンのマルチコピー機を使ったサービスを紹介することができます。

これは、パソコンまたは携帯電話で必要なエリアの地図を住所などから予約。セブンイレブンのマルチコピー機で内容を確認し、料金を投入しプリントするというサービスです。

自宅近くや外出先、マルチコピー機の置いてあるセブンイレブンでならどこでもプリント可能です。プリントされる地図の縮尺はおよそ1/1,500、A3サイズ、料金は1枚300円です。



楽譜でも同じセブンイレブンのマルチコピー機を使ったサービスがあります。「ぷりんと楽譜」

(<http://www.print-gakufu.com>) です。ヤマハミュージックメディアが提供しているサービスで、マルチコピー機でのプリントサービスを行っています。価格は1曲、105円～です。

どうしても、全部のコピーが必要な利用者がいらっしゃった場合などに紹介してみたいでしょうか。



レファレンス・サービスに関する雑誌記事紹介

(2011年12月～2012年3月分)

※ 論題(記事名)、著者、雑誌名、出版者/編者 巻号、発行年月、掲載ページの順に記載
(参考: 国立国会図書館NDL-OPAC 雑誌記事索引。 MAGAZINE PLUS)

- 1 図書館ノート(13) 夜明けの図書館: レファレンスサービスは夜明け前? 山口 真也 『みんなの図書館』 図書館問題研究会 (通号 419) [2012. 3] p. 53~57
- 2 れふあれんす三題噺(その 189) 高知県立図書館の巻 みんなで創る知の拠点: チームレファレンスのススメ 山本 那美 『図書館雑誌』 日本図書館協会 106(3) (通号 1060) [2012. 3] p. 172~173
- 3 特集 発表! 第15回 図書館を使った調べる学習コンクール 『あうる』 図書館の学校 (No. 105) [2012. 2-3] p. 10~26
- 4 レファレンス記録から(5) 子どもの読み方はちがう: 『ピンクのモーモー』、という本、ありますか? 杉山 きく子 『こどもの図書館』 児童図書館研究会 59(2) [2012. 2] p. 10~11
- 5 レファレンス記録から(4) 昔話のレファレンス(1) 「ジャックと豆の木」の大男の三つの宝って何? 杉山 きく子 『こどもの図書館』 児童図書館研究会 59(1) [2012. 1] p. 10~11
- 6 れふあれんす三題噺(その 188) 北海道立図書館の巻 思い出探しから仕事の調査まで—資料とDBをフル活用— 加藤 ひろみ, 大塚 寿信 『図書館雑誌』 日本図書館協会 106(1) (通号 1058) [2012. 1] p. 44~45
- 7 チャートで考えるレファレンスツールの活用(ステップ 35) 京都〈最終回〉 大串 夏身 『あうる』 図書館の学校 (No. 104) [2011. 12-2012. 1] p. 42~46
- 8 レファレンス記録から(3) 戸をあけると何かかいる 杉山きく子 『こどもの図書館』 児童図書館研究会 58(12) [2011. 12] p. 12
- 9 児童奉仕の実際 レファレンスサービス (特集 第31回(2011年)児童図書館員養成専門講座報告) 『こどもの図書館』 58(12) [2011. 12] p. 6
- 10 れふあれんす三題噺(その 187) 三重県立図書館の巻 レファレンスから見えてくること 塚田 美雪 『図書館雑誌』 日本図書館協会 105(12) (通号 1057) [2011. 12] p. 812~813
- 11 都立中央図書館における利用者サポートの実践 (特集 ラーニングcommonsと利用者サポート) 青野 正太, 余野 桃子 『情報の科学と技術』 情報科学技術協会 61(12) [2011. 12] p. 495~500

NEWS

1 書庫ツアー開催（2/2）

2月2日（木）に、今年度4回目となる書庫ツアーを開催しました。当日は10名の参加がありました。

このツアーでは、書庫の各層に特に紹介したい資料を事前に台に用意して説明する等の工夫をして、参加者により詳しく理解していただくことができたのではないかと思います。

2 第8回レファレンス協同データベース事業フォーラム開催（2/27）

2月27日（月）に、国会図書館関西館大会議室で「レファレンス協同データベース事業のNext Step：人の輪が生みだすレファ協の未来」が開催されました。

東京都立中央図書館や茨城県立歴史館によるレファ協を活用した取組の実践報告、パネルディスカッション等が行われました。このフォーラムはレファ協サポーターの協力で、内容がインターネットを通じて生中継もされました。

配布資料は、レファレンス協同データベース事業ホームページで公開されています。

(http://crd.ndl.go.jp/jp/library/forum_8.html)

3 市町村図書館職員レファレンス体験研修の実施（2/28）

2月28日（火）に、苫小牧市立中央図書館から職員1名が来館してレファレンス体験研修を行いました。

研修者から要望のあった産業・工業関係のレファレンス方法等をはじめ、地域資料を使った調査の研修や情報交換を行いました。

4 北見地区公共図書館（北見ブロック）研修会へ講師派遣（3/15）

3月15日（木）に、北見市立中央図書館で開催された研修会で、当課原が「レファレンスへのインターネット活用術について」と題して講義をし、研究協議にも参加しました。

5 日本薬学図書館協議会シンポジウム開催（3/28）

3月28日（水）に、北海道医療大学サテライトキャンパスで行われたシンポジウムで、同大学学務部次長の平紀子氏が「道内における医療情報連携と地域貢献」と題し発表。当館との連携事業も紹介されました。

6 光交付金でレファレンスツールが充実

国の「住民生活に光をそそぐ交付金」を活用した資料の受入・整備が完了しました。

一般資料だけでも約43,000冊の参考図書や単行本等を購入しており、日々の調査回答や、資料提供に大いに役立っています。

7 筑波大学公開講座「これからの公共図書館政策」受講者募集中

地域の課題解決支援に取り組む図書館政策の立案を学ぶ講座が、5月28日に開催予定です。受講者募集中です。詳細は大学のHPをご覧ください。

(<http://www.tsukuba.ac.jp/>) トップ>社会貢献・生涯学習>公開講座>現職教育講座

編集後記

- ◆ ひとまず今回 1969 年までの創刊号目録を作成しました。それと併せて未登録であった雑誌もしっかり登録しました。当館の雑誌の所蔵は全国でも誇れる豊富さ。今後活用できればいいと思っています。(on)
- ◆ こんなにありますーいちおしレファレンス・ブッケーで医療従事者向け資料を取りあげて、様々な資料が次から次へと出版されていることを実感しました。医療の世界は日進月歩なので患者もついていくように勉強するのは大変だなあと思いました。(k)
- ◆ 国立国会図書館が配信試行を始めた“歴史的音源”。今後続くであろうデジタル化資料配信の先駆けとも言えます。ちょっと楽しいのが「東京音頭」の替え歌がたくさんあること…「北海道音頭」「九州音頭」「台湾音頭」なんて言うのもあるんですよ！(ku)
- ◆ 今回の NEWS でも取り上げた当館の書庫ツアーは、近年では年に 4 回開催しています。館内ポスターやホームページでの広報の他に、地元の新聞に事前告知を掲載していますが、それによってこのツアーのために初めて来館したという参加者にも多く来ていただいています。(T)
- ◆ 今回、つぶやきでセブンイレブンのマルチコピー機でのプリントサービスを取り上げました。著作権の関係で図書館では一部分の複写しかできないゼンリンの地図や楽譜が、コンビニのコピー機で手軽に買うことができることは案外知られていないので、急ぎの利用者にこのサービスを紹介しています。(H)
- ◆ 利用サービス課になってからの 3 冊目を何とか年度内に発行することができ、安堵しています。今回は、長沼町図書館の池内さんからご寄稿いただきました。利用者とのやりとりが、目に浮かぶようですね。さて、解けそうで解けない積雪ですが、新年度もどうぞよろしくお願いいたします。(Z)



Do-Re(どうれ)の由縁

“どうりつとしょかんレファレンス”の
略から名付けました。
しかしながら
“どれどれレファレンス”からとの説もあります。

THE REFERENCE NEWSLETTER OF HOKKAIDO PREFECTURAL LIBRARY

Do-Re

北海道立図書館レファレンス通信 No.45(通巻49号)

発行年月日 平成24年3月31日
編集 北海道立図書館利用サービス課
発行 北海道立図書館
〒069-0834 北海道江別市文京台東町41番地
TEL 011-386-8521 FAX 011-386-6906
<http://www.library.pref.hokkaido.jp>
e-mail: sancho@library.pref.hokkaido.jp
